



海洋生命科学部



TOPICS

グローバル人材育成支援プログラム

海洋生命科学部の[®]グローバル人材育成支援プログラム

本学部の前身である海洋科学部の「グローバル人材育成支援プログラム」は、2012年に文部科学省の「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援事業（特色型）」に採択され、最終評価（2017年）で高い評価を受けました。2017年に海洋生命科学部となっても、国立大学理系学生のグローバル人材育成改革を先導し、より優れたプログラムになるように改善に努めています。

● 詳細 <https://www.kaiyodaiglobal.com/>

STEP 1

社会が求める国際人として基礎英語力の向上
学部4年次へのTOEICスコア600点の進級要件化

STEP 2

グローバルな視野でキャリアを見渡せる学士力
学部3、4年次での海外派遣キャリア演習

STEP 3

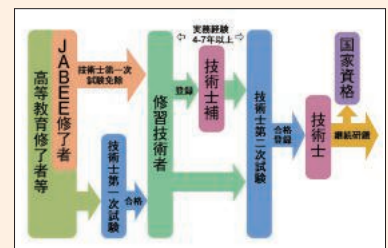
大学院レベルでの高度な論理的英語討論力
大学院（博士前期課程）授業の完全英語化

JABEE 認定教育プログラム

国際化に対応した技術者教育プログラム

日本技術者教育認定機構（JABEE）は、技術者を育成する教育プログラムを審査し認定する組織です。東京海洋大学の前身である東京水産大学水産学部の水産学プログラムは、2004年に農学一般関連分野として初のJABEE認定を受けました。大学統合により東京水産大学水産学部を継承した東京海洋大学海洋科学部も2008年に継続認定され、2017年度に改称・設置した海洋生命科学部・海洋資源環境学部は、2018年度に認定されています。

JABEE認定課程修了者には、「技術士」の一次試験が免除され、「修習技術者」として就職活動で大きな強みを持ちます。さらに実務経験を積んで国家資格「技術士」試験に合格すれば、高度な技術者として確たる評価を受けることになります。JABEEは、2005年からワシントン協定(Washington Accord：技術者教育の実質的同等性を相互承認するための国際協定)に加盟していることから、認定者には国際的に活躍する機会が広がります。



※グローバル人材育成支援プログラムは、海洋生命科学部と海洋資源環境学部の共通のプログラムです。

先輩が東京海洋大学に
入学を決めた理由



海洋生命科学部

品川キャンパス

入学定員総数

170名

海洋生物資源学科

71名

食品生産科学科

58名

海洋政策文化学科

41名



海洋生物資源の利用・管理を通し 人類社会の持続可能な発展に貢献します

海洋生命科学部長 後藤 直宏

海洋生命科学部は、海洋生物資源学科、食品生産科学科、海洋政策文化学科の3つの学科で構成された学部です。生物資源、食品生産、政策文化という関連がなさそうな教育研究分野に分かれている3学科ですが、海洋・水圏の生命科学や水産およびそれらに関わる人の営みなどで強いつながりを有し、しかも各分野がお互いを刺激合うことで非常に特色ある学部になっています。

海洋生物資源学科では、主に海洋生物の安全・持続的利用に関する教育研究を行っており、具体的には、生態系・生物多様性、持続可能な漁業、水産資源管理、増養殖技術の開発、海洋生物の機能などの教育研究を実施しています。水の中に暮らす生物を総合的に理解して、これらを守りながら持続的に利用する方法を日々教育研究しています。

食品生産科学科では、食の安全・安心・おいしさに関する教育研究を行っており、具体的には、シーフードサイエンス、冷凍・加熱技術の利用、食品衛生と品質保持、食品加工利用技術の開発と利用、食品分析のための各種方法の開発などの教育研究を実施しています。これらの教育研究では、持続可能な食資

源確保を念頭に食資源を余すことなく利用する技術開発や研究を行っています。

海洋政策文化学科では、主に持続可能な海洋産業と海洋文化振興に関し教育研究を行っており、具体的には、マリンスポーツ・海洋文化振興、沿岸域利用・管理、水産経済・マーケティング、漁村振興、環境教育などの教育研究を実施しています。海洋の保全と人間生活の豊かさを両立させることを目標に、多種の学問分野からアプローチした教育研究を行っています。

現在、世界は気候変動、エネルギー問題、食糧不足、地域紛争など数えきれないぐらいの問題に直面しています。海洋生命科学部ではこれら問題に対し、「海洋生物資源の利用・管理を通し人類社会の持続可能な発展」という切り口で向かい合い、よりよい社会の実現に取り組んでいます。皆さん、海洋生命科学部と一緒に学び、このような世界の諸問題に正面からぶつかり、明るい未来を一緒に作る研究をしてみませんか。東京海洋大学 海洋生命科学部はそのような熱い気持ちを持った学生をお待ちしています。



海洋生物資源学科

学科の情報はこちら
(大学 HP)



海だけでなく広く水の中に暮らす生き物(水生生物)を対象として「生命科学」と「資源生物学」を教育・研究しています。具体的には、これらの生き物について遺伝子のレベルから、細胞、個体、群れ、生態系のレベルまでそれぞれに学ぶことができる講義や、それぞれの生き物と環境との関係について学ぶことができる講義などがあります。また、学んだ内容をさらに深めるための実習や実験も充実しています。

このような講義や実習・実験を通して、水生生物を守りながら、これらを利用していくための方法と考え方を習得することができます。



教育内容の概要

海洋生命科学に関する基礎及び専門的知識と技術を修得させるとともに、海洋生命科学における課題設定能力と解決能力、及び高度専門職業人としての基礎を修得させるために、総合科目、基礎科目、専門科目等の授業及び実験・実習等を体系的に編成し、組織的教育を行います。

総合科目及び基礎科目では、幅広い教養・論理的思考能力・文化的素養・国際的視野・コミュニケーション能力を養うこと、大局化した諸課題を総合的に理解・判断できる能力が修得できることを目標として講義・演習等を編成し、組織的に教育を行います。

また、専門科目では水圏に棲息する生物を対象として、生態系のなかでの多様性を保全しつつ、持続的に利用するための「生命科学」と「資源生物学」に関する深い専門的知識・技術を修得します。さらに、海洋生命科学に関する諸課題を多面的に探求・分析・解決できる能力を修得できることを目標に講義・演習・実験・実習等、及び卒業論文等を体系的に編成し、組織的な教育を行います。

4年間で学ぶ授業例

*を付した科目は必修です。 ※令和5年度時点。令和6年度より2学期制から4学期制への移行に伴い、カリキュラムを変更予定。

		1年次	2年次	3年次	4年次
総合科目	共通導入科目				
	文化学系科目 哲学・科学論系科目 社会科学系科目 健康・スポーツ系科目 外国語系科目				
基礎科目	●物理学* ●化学* ●生物学* ●水産海洋概論Ⅰ* ●水産海洋概論Ⅱ* ●基礎微積分Ⅰ ●基礎微積分Ⅱ	●数理解析 ●線形代数 ●データサイエンス入門A ●データサイエンス入門B	●統計学* ●情報処理概論 ●陸水学		●物理学実験 ●地学 ●地学実験
	●TOEIC入門* ●グローバルキャリア入門 ●キャリア形成論Ⅰ			●TOEIC演習* ●海外派遣キャリア演習Ⅰ ●キャリア形成論Ⅱ	●海外派遣キャリア演習Ⅱ
コア課程科目	●有機化学Ⅰ* ●分子生物学*	●生物化学Ⅰ* ●微生物学* ●微生物学実験*		●公衆衛生学*	
専門科目	基礎教育	●海洋動物学 ●海洋植物学	●生物化学Ⅱ ●有機化学Ⅱ ●海洋動物学実習 ●水族生理学 ●動物発生学 ●動物組織学	●遺伝子工学 ●動物生態学 ●集団生物学 ●漁具漁法学 ●応用統計学 ●遺伝子工学実験	●海洋生物資源実務実習 ●水族生理学実験 ●職業指導
	アドバンスト課程科目 生命科学系			●水族遺伝育種学 ●応用藻類学 ●応用藻類学実習 ●水族病理学 ●水族養殖学 ●水族養殖・育種学実習Ⅰ	●水族養殖学 ●栄養生物化学実験 ●水族薬理学 ●応用微生物学 ●応用微生物学実験
	生物資源学系		●漁業科学実習	●魚群行動学 ●生物資源モデリング ●鯨類資源論 ●集団生物学実習 ●漁業解析学 ●生産システム学	●漁業科学演習 ●応用保全生物学 ●生物資源解析学 ●生物資源解析学演習 ●漁業科学実験
卒業研究科目					●セミナー* ●卒業論文*

1 週間の時間割例

括弧付きの科目は、資格取得のための科目です。

[2 年次] 総合科目、基礎科目中心、実験科目中心

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1			Interactive English II		漁具漁法学
2	Effective English II	(理科教育法 II)	集団生物学		生物化学 II
3	応用統計学	微生物学実験	動物組織学実験	海洋動植物学実習	遺伝子工学実験
4	情報処理概論	微生物学実験	動物組織学実験	海洋動植物学実習	遺伝子工学実験
5		微生物学実験			遺伝子工学実験

[3 年次] 応用専門科目、実験科目中心

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1	魚群行動学	水族養殖学		生物資源解析学	
2	水族病理学	応用藻類学	漁業解析学	応用微生物学	応用保全生物学
3	応用微生物学実験	漁業解析学	比較生理学実験		漁業科学実験
4	応用微生物学実験	水族病理学	比較生理学実験	(博物館学 IV)	漁業科学実験
5	応用微生物学実験	生物資源解析学	比較生理学実験	公衆衛生学	漁業科学実験

取得可能資格

- 高等学校教諭一種免許状 (理科・水産)
- 学芸員
- 三級海技士 (航海)※
- 技術士補

※ 本学は第一種養成施設として国の登録を受けており、学部及び海洋科学専攻科 (p.43) を修了すれば、筆記試験が免除されます。

卒業後の進路

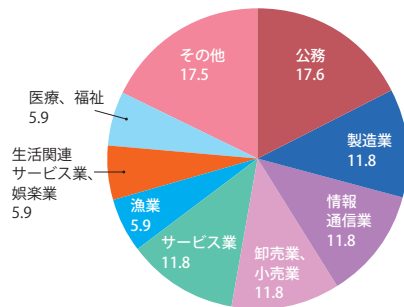
令和 3 年度卒業生 (%)

大学院進学	69.6
海洋科学専攻科	1.4
就職	23.2
その他	5.8

就職先

味の素、いであ、ANA フーズ、オリエンタル酵母、海洋高校 (教員)、海遊館、カゴメ、葛西臨海水族園、キュービー、極洋、栗田工業、グロープライド、小林製薬、JF 共済、島津製作所、商船三井客船、水産庁、水産研究・教育機構、都道府県水産試験場、東京久栄、東洋水産、ニチモウ、ニチレイフーズ、日揮、日清丸紅飼料、日本ハム、日本 IBM システムズ・エンジニアリング、日本食品分析センター、ニッスイ、ニッポン、ハウス食品、マルコメ、マルハニチロホールディングス、三井製糖、三菱商事ライフサイエンス、明治、モンベル、ヤクルト本社、ヤマサ醤油、山崎製パン、雪印メグミルク、横浜・八景島シーパラダイス、理研食品、理研ビタミン、ロッテ 等

就職先業種



令和 3 年度卒業生産業別就職状況 (%)
 ※進学等を除く学部卒業者の実績
 ※大学院修了者の就職状況は P.44 参照

学科担当教員の研究分野・内容

■ 水族生理学

水生生物の発生と繁殖、保全についての研究

■ 水族病理学

水生生物の病気と予防・治療についての研究

■ 水族栄養学

水生生物の栄養要求と飼料開発についての研究

■ 水族養殖学

水生生物の遺伝形質と育種技術、養殖技術と飼育装置開発に関する研究

■ 応用藻類学

海藻の生理・生態、遺伝・育種、養殖技術についての研究

■ 集団生物学

資源生物の多様性と保全についての研究

■ 増殖生態学

資源生物の増殖と生態・進化についての研究

■ 資源解析学

資源生物の変動機構と制御についての研究

■ 魚群制御学

資源生物の行動と制御技術についての研究

■ 生産システム学

資源生物の採集技術の開発と評価についての研究

■ ゲノム科学

水生生物のゲノム情報と遺伝子についての研究

■ 先端魚類防疫学

水生生物の免疫機構解明とその応用、薬物動態および毒性に関する研究

■ 応用微生物学

水中の有用微生物の探索とその応用についての研究



漁業科学実習



水族養殖育種学実習 I

食品生産科学科

学科の情報はこちら
(大学 HP)



安全で信頼性の高い食品を持続的に供給するため、食資源を余すことなく利用する技術について、化学、微生物学、物理学の視点から教育・研究を行っています。また、栄養や美味しさ、さらには健康に役立つ機能を引き出し、アレルギーや食中毒などの危険のない安全な食品を生産するための理論と技術について教育・研究しています。水産生物資源の食品としての有効利用、食品の原料から消費に至るまでの安全性の確保・向上、食品の美味しさや栄養価の向上、食品の新しい機能開発などに興味と関心をもつ学生を求めています。



教育内容の概要

海洋生命科学に関する基礎及び専門的知識と技術を修得させるとともに、海洋生命科学における課題設定能力と解決能力、及び高度専門職業人としての基礎を修得させるために、総合科目、基礎科目、専門科目等の授業及び実験・実習等を体系的に編成し、組織的教育を行います。

総合科目及び基礎科目では、幅広い教養・論理的思考能力・文化的素養・国際的視野・コミュニケーション能力を養うこと、大局化した諸課題を総合的に理解・判断できる能力が修得できることを目標として講義・演習等を編成し、組織的に教育を行います。

また、専門科目では水圏生物を中心とした食資源の栄養、嗜好、健康に役立つ機能を余すことなく引き出しつつ、安全な食品を生産するための化学的、微生物学的、物理学的及び工学的な深い専門的知識・技術を修得します。さらに、海洋生命科学に関する諸課題を多面的に探求・分析・解決できる能力を修得できることを目標に講義・演習・実験・実習等、及び卒業論文等を体系的に編成し、組織的な教育を行います。

4年間で学ぶ授業例

*を付した科目は必修です。 ※令和5年度時点。令和6年度より2学期制から4学期制への移行に伴い、カリキュラムを変更予定。

		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
総合科目	共通導入科目	● 共通導入科目			
	文化学系科目	● 文化学系科目			
基礎科目	哲学・科学論系科目	● 哲学・科学論系科目			
	社会科学系科目	● 社会科学系科目			
基礎科目	健康・スポーツ系科目	● 健康・スポーツ系科目			
	外国語系科目	● 外国語系科目			
基礎科目	● 物理学*	● 物理学*	● 統計学*		● 地学
	● 化学*	● 化学*	● 物理学実験*		● 地学実験
基礎科目	● 生物学*	● 生物学*	● 情報処理概論		
	● 水産海洋概論Ⅰ*	● 水産海洋概論Ⅰ*	● 陸水学		
基礎科目	● 水産海洋概論Ⅱ*	● 基礎微積分Ⅰ			
	● 基礎微積分Ⅱ	● 基礎微積分Ⅱ			
基礎科目	● 数理解析	● 数理解析			
	● 線形代数	● 線形代数			
基礎科目	● データサイエンス入門 A	● データサイエンス入門 A			
	● データサイエンス入門 B	● データサイエンス入門 B			
関連科目	● TOEIC 入門*	● TOEIC 入門*		● TOEIC 演習*	● 海外派遣キャリア演習Ⅱ
	● グローバルキャリア入門	● グローバルキャリア入門		● 海外派遣キャリア演習Ⅰ	
関連科目	● キャリア形成論Ⅰ	● キャリア形成論Ⅰ		● キャリア形成論Ⅱ	
コア課程科目	● 有機化学Ⅰ*	● 有機化学Ⅰ*	● 生物化学Ⅰ*	● 公衆衛生学*	
	● 分子生物学*	● 分子生物学*	● 微生物学*		
コア課程科目			● 微生物学実験*		
アドバンスト課程科目	● 食品生産科学入門実験*	● 食品生産科学入門実験*	● 食品化学*		
	● 生産物理学*	● 生産物理学*	● 化学実験*		
アドバンスト課程科目			● 食品工学*		
			● 生物化学Ⅱ		
アドバンスト課程科目			● 有機化学Ⅱ		
			● 物理化学		
アドバンスト課程科目			● 食品微生物学	● 食品生産学実習*	● 資源利用化学
			● 応用統計学	● 食品分析学	● 食品化学実験
アドバンスト課程科目			● 食品生産システム調査	● 食品化学基礎実験	● 食品微生物学実験
				● 食品衛生学	● 食品流通安全管理論
アドバンスト課程科目				● 衛生微生物学	● 食品包装論
				● 食品加工学	● 食品殺菌工学
アドバンスト課程科目				● 食品貯蔵学	● 食品工学演習Ⅰ
				● 食品保全化学	● 食品工学演習Ⅱ
アドバンスト課程科目				● 食品冷凍学	● 食品生産システム論
				● 食品工学実験	● 食品物性学
アドバンスト課程科目				● 食品機能学	● 職業指導
卒業研究科目					● セミナー*
					● 卒業論文*
					● 自己啓発型食品生産科学アドバンストプログラム*

1 週間の時間割例

括弧付きの科目は、資格取得のための科目です。

オレンジ色の科目は、食品衛生コースの科目です。

[1 年次後期(3～4 学期)] 総合科目、基礎科目中心

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1	Practical English II	日本国憲法		文学	日本語表現法
2		有機化学 I	Basic English II		
3	食品生産科学入門実験		スペイン語 II	線形代数	スポーツ II
4	食品生産科学入門実験		(教育原理)	数理解析	生産物理学
5	食品生産科学入門実験		分子生物学	水産海洋概論 II	現代倫理学

[3 年次前期(1～2 学期)] 専門科目、応用科目中心

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1		食品物性学 ^{※1}	食品衛生学 ^{※2}	食品分析学	
2	食品工学演習 I	食品物性学 ^{※1}	食品加工学	食品生産システム論	食品衛生学 ^{※2}
3	食品流通安全管理論 ^{※1}	食品工学実験	資源利用化学 ^{※3} / 食品保全化学 ^{※3}	(水産科教育法 I)	食品化学基礎実験 / 食品微生物学実験
4	食品流通安全管理論 ^{※1}	食品工学実験	資源利用化学 ^{※3} / 食品保全化学 ^{※3}	(博物館学 IV)	食品化学基礎実験 / 食品微生物学実験
5	衛生微生物学 ^{※2}	食品工学実験	衛生微生物学 ^{※2}	公衆衛生学	食品化学基礎実験 / 食品微生物学実験

*1、2、3、4、5 および 6 はクォーター制導入科目です。

食品流通安全管理論、衛生微生物学、食品物性学、資源利用化学および食品衛生学は 1 学期(4 月～6 月上旬)に、食品保全化学は 2 学期(6 月中旬～9 月上旬)にそれぞれ開講されます。

取得可能資格

- 高等学校教諭一種免許状(理科・水産)
- 食品衛生管理者
- 学芸員
- 三級海技士(航海)[※]
- 食品衛生監視員
- 技術士補

※ 本学は第一種養成施設として国の登録を受けており、学部及び海洋科学専攻科(p.43)を修了すれば、筆記試験が免除されます。

卒業後の進路

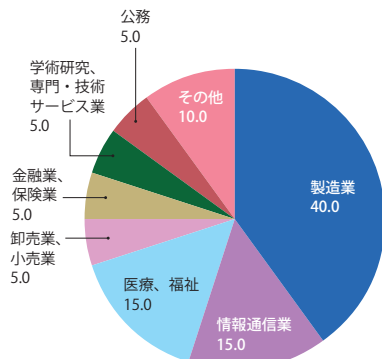
令和 3 年度卒業生 (%)

大学院進学	68.6
海洋科学専攻科	—
就職	28.6
その他	2.8

就職先

味の素、アヲハタ、イオン、伊藤ハム、エスピー食品、エバラ食品工業、カゴメ、カルピス、紀文、キュービー、ケンコーマヨネーズ、JT、資生堂、水産庁、スターゼン、大和製罐、地方自治体職員(食品衛生監視員、教員)、東洋食品研究所、東洋水産、永谷園、なとり、ニチレイ、日清オイリオ、日清食品、日清製粉グループ本社、日本食品分析センター、ニッスイ、日本生活協同組合連合会、ニッポン、日本ハム、ハウス食品、はごろもフーズ、不二製油、プリマハム、ブルドックソース、宝幸、丸大食品、マルハニチロ、ミツカン、三菱商事ライフサイエンス、明治、森永製菓、森永乳業、山崎製パン、ヤマサ醤油、雪印メグミルク、ロッテ 等

就職先業種



令和 3 年度卒業生産業別就職状況 (%)
 ※進学等を除く学部卒業生の実績
 ※大学院修了者の就職状況は P.44 参照

学科担当教員の研究分野・内容

■食品微生物学

食品の安全性を守り、資源環境問題を意識し、微生物による腐敗や食中毒汚染などにより無駄に食資源が廃棄されることがないように、食品に関連する微生物全般における研究を行う

■食品衛生化学

食物・薬物アレルギーの原因物質であるアレルゲンの新規検出系の開発や魚介類を中心とした食物アレルゲンの特性解析、その他、食品衛生に関連する生化学的・分子生物学的研究を行う

■食品栄養化学

食品または食品栄養成分に対する化学・生物化学的評価、ならびに食品がヒトの健康に寄与する機構解明を目的とした研究を行う

■食品保全化学

油脂の分析法の確立、酸化機構解明、抗酸化剤開発、生体内機能、代謝機構などに関して研究を行う

■生体物質化学

ヒトデなどの未利用生物、フグのような有毒動物、廃棄物となる魚貝類の不可食部に含まれる有用な成分や優れた機能を探索し、生化学・医薬資源として高度に利用することで地球環境の保全に役立てる研究を行う

■食品物性学

食感には甘い、辛いなど五味によるものと、歯でたえ、色、形などによるものがある。食品物性学は後者に着目し、タンパク質や多糖類の性質に基づいて食品や食品素材の物理化学的性質を説明し、例えば、介護食や機能性食品の食品開発に役立つ研究を行う

■食品加工学

原料から消費に至るまでの品質や安全性に関わるプロセスの高精度な定量的解析、先端食品製造装置・システムの開発設計と操作特性、環境保全と一体化した素材の開発に関する原理と先端技術などについての総合的な研究を行う

■食品プロセス工学

食品製造機器の洗浄及び衛生管理に関わる事柄について、様々な視点(基礎～応用)から研究を行う

■食品冷凍学

食品冷凍技術は多くの周辺要素技術の組み合わせであり、物理学・化学・生物学など様々な学問分野が関係する。これらの技術や知識を総動員して、食品の冷蔵・凍結保存を、美味しく、かつ持続可能とするための研究を行う

■食品熱操作工学

様々な加工や調理における熱の伝わりを理解し、食品素材の変化を予測・制御することを目指す。過不足のない適切な加熱を実現し、美味しさ&安全性を確保する。プロの料理人の技を実現できる高度な調理シミュレーターの開発など、食品産業への展開を視野に入れた研究を行う

■食品流通安全管理学

食品安全マネジメントシステム、HACCP、品質評価、トレーサビリティ、リスクコミュニケーションなど、食品安全、品質、経営の視点から、食品産業の発展に寄与する研究を行う

■食品流通安全制御学

安全・安心なフードシステムの構築を目標に、環境保全、食品の安全性確保と品質保持、食品中の危害物低減等に着目し、海から食卓までの供給管理技術の開発研究を行う

海洋政策文化学科

学科の情報はこちら
(大学 HP)



政策・産業・文化という3つの切り口から、国際的かつ学際的な視野をもって教育を行います。その対象は、法律、経済、人文学、海洋スポーツ、教育学など、多岐にわたります。こうした教育によって、広い知識を修得すると同時に、物事を理解し考えるための思考力を育てます。

具体的には、海や人をめぐって起きていることを講義から知り、調査や実習を通して現場の事実を体験的に学び、得られた知見を議論によってさらに深めていくことによって、海洋をめぐるさまざまな課題を政策的に解決する実践力を身に付けます。

このように、本学科では、理系と文系を問わず総合的な立場から考える力と行動する力を兼ね備え、海と人と社会の望ましいつながりの実現に貢献できる人材を育成します。



教育内容の概要

海洋生命科学に関する基礎及び専門的知識と技術を修得させるとともに、海洋生命科学における課題設定能力と解決能力、及び高度専門職業人としての基礎を修得させるために、総合科目、基礎科目、専門科目等の授業及び実験・実習等を体系的に編成し、組織的教育を行います。

総合科目及び基礎科目では、幅広い教養・論理的思考能力・文化的素養・国際的視野・コミュニケーション能力を養うこと、大局化した諸課題を総合的に理解・判断できる能力が修得できることを目標として講義・演習等を編成し、組織的に教育を行います。

また、専門科目では海洋をめぐる社会科学的・人文科学的諸事象に関する基礎及び専門的知識を総合的に修得します。具体的には、「海・人・社会」の望ましいあり方を探究することを目的とした課題設定能力と解決能力を育成します。そのために、経済、法律、国際関係、社会、歴史、思想、文化、言語、文学、教育、海洋スポーツ等に関する幅広い授業科目を配し、組織的な教育を行います。

4年間で学ぶ授業例

*を付した科目は必修です。 ※令和5年度時点。令和6年度より2学期制から4学期制への移行に伴い、カリキュラムを変更予定。

	1年次	2年次	3年次	4年次	
総合科目	<ul style="list-style-type: none"> 共通導入科目 文化学系科目 哲学・科学論系科目 社会科学系科目 健康・スポーツ系科目 外国語系科目 				
基礎科目	<ul style="list-style-type: none"> 水産海洋概論Ⅰ* 水産海洋概論Ⅱ* 基礎微積分Ⅰ* 基礎微積分Ⅱ* 数理解析 線形代数 物理学 化学 生物学* データサイエンス入門A データサイエンス入門B 	<ul style="list-style-type: none"> 統計学* 情報処理概論 陸水学 		<ul style="list-style-type: none"> 物理学実験 地学 地学実験 	
関連科目	<ul style="list-style-type: none"> TOEIC 入門* グローバルキャリア入門 キャリア形成論Ⅰ 		<ul style="list-style-type: none"> TOEIC 演習* 海外派遣キャリア演習Ⅰ キャリア形成論Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> 海外派遣キャリア演習Ⅱ 	
コア課程科目	<ul style="list-style-type: none"> 海洋政策文化入門* 日本経済論 経営学 水圏環境教育学 漁業管理論 	<ul style="list-style-type: none"> 海洋政策文化研究法* 水産経済学 海洋法 資源利用関係論 海洋環境政策論 	<ul style="list-style-type: none"> 環境と教育 海洋性レクリエーション論 国際文化思想論 多文化環境論 	<ul style="list-style-type: none"> 科学技術論 生命・環境倫理学 	
専門科目	共通系	<ul style="list-style-type: none"> 海洋政策文化基礎演習 	<ul style="list-style-type: none"> 海洋政策文化特別講義 	<ul style="list-style-type: none"> 海洋政策文化インターンシップ 職業指導 	
	海洋産業・海洋政策系	<ul style="list-style-type: none"> 食料経済論 経済学演習 	<ul style="list-style-type: none"> 漁業経営論 食品マーケティング論 海事事業 水産経済学 水産調査 	<ul style="list-style-type: none"> 沿岸域利用論 水産物流通論 水産経済史 資源経済論 海洋管理制度論 水産政策論 沿岸域管理論 海洋政策実習 沿岸地域社会調査 漁村フィールドワーク実習 	
	海洋スポーツ系		<ul style="list-style-type: none"> 海と健康 マリンスポーツ実習 水圏環境教育学実習 漁具漁法学 動物発生学 微生物学 動物組織学 資源生物学実験 比較生物学 集団生物学 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ生理学 健康・スポーツ科学 水圏環境コミュニケーション学実習 水族楽養学 魚群行動学 栄養生物化学実験 	
	国際・科学文化系	<ul style="list-style-type: none"> 魚食文化論 	<ul style="list-style-type: none"> 海洋文化史 国際関係論 	<ul style="list-style-type: none"> メディア文化論 環境文学 環境思想 海洋文学 政治哲学 生命・環境倫理学の諸問題 科学技術論の諸問題 国際協力論 日本社会理解 	
卒業研究科目			<ul style="list-style-type: none"> 海洋政策文化セミナーⅠ* 海洋政策文化セミナーⅡ* 	<ul style="list-style-type: none"> セミナー* 卒業論文* 	

1 週間の時間割例

括弧付きの科目は、資格取得のための科目です。

[1 年次] 総合科目、基礎科目中心

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1	Practical English II	日本国憲法	日本経済論	政治学	
2			Basic English II		
3			スペイン語Ⅱ	数理解析	経営学
4	日本語表現法		(教育原理)		スポーツⅡ
5	ヨーロッパ文化論	漁業管理論	水圏環境教育学	水産海洋概論Ⅱ	現代倫理学

[3 年次] 専門科目、応用科目中心

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1					
2		スポーツ生理学	メディア文化論		沿岸域管理論
3		沿岸域利用論			水産経済史
4	資源経済論			(博物館学Ⅳ)	
5	生命・環境倫理学	環境思想	環境文学		海洋政策文化セミナーⅠ

取得可能資格

- 高等学校教諭一種免許状(理科・水産)
- 学芸員
- 三級海技士(航海)*
- 技術士補

* 本学は第一種養成施設として国の登録を受けており、学部及び海洋科学専攻科(p.43)を修了すれば、筆記試験が免除されます。

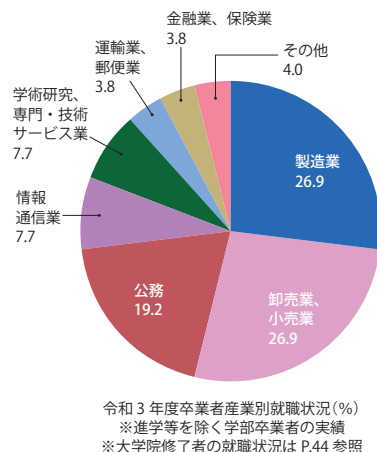
卒業後の進路

	令和3年度卒業者(%)
大学院進学	16.7
海洋科学専攻科	8.3
就職	72.2
その他	2.8

就職先

国家公務員総合職・一般職等(農林水産省、水産庁、水産総合研究センター、北海道開発局等)、地方公務員総合職・技術職・教員等(北海道、青森県、岩手県、山形県、福島県、東京都、神奈川県、富山県、滋賀県、山口県、徳島県、高知県、気仙沼市、新庄市等)、大学教職員(東京海洋大学、近畿大学、筑波大学等)、共水連、極洋、漁業連、国分、商船三井客船、新京成電鉄、セブン-イレブン・ジャパン、JTB、全水加工連、全漁連、全日本空輸、全農、中央魚類、テレビ新潟、東洋冷蔵、ニチモウ、ニチレイ、日本漁業保険組合、日本航空、ニッスイ、日本政策金融公庫、日本生命保険、野村証券、東日本旅客鉄道、マリンフーズ、マルハニチロ、三井住友海上保険、三菱UFJ銀行、明治、リクルート、理研ビタミン 等

就職先業種



学科担当教員の研究分野・内容

■ 国際海洋政策

捕鯨問題を含む国際的な漁業や海洋の問題、生物多様性の保全などの国際環境問題を研究する

■ 国際開発・協力論

水産物をめぐる国際貿易や漁業の国際協力のあり方を研究する

■ 海事法・海洋法

海洋の法制度と船舶の航行に関する法の研究

■ 海洋環境政策論・海洋管理制度論

海洋資源に関する管理制度を主に環境経済的な視点から研究する

■ 資源経済論

効率的な資源利用における市場経済の役割と政策の役割を研究する

■ 水産経済政策論

経済学的視点から海洋、なかでもとくに水産政策のあり方を研究

■ 水産経済・経営学

経済学的な視点から、資源管理、漁業管理、および地域創生のあり方について研究

■ 流通・マーケティング論

生産と消費を適合させる仕組みや取り組みに関する研究

■ 水産経済史

海を舞台とした経済活動の歴史を研究する

■ 沿岸域・海洋管理論

沿岸域・海域の資源環境を持続的に利用する「しくみ」の望ましいあり方を研究

■ 沿岸域資源論

沿岸域における資源=人と魚と水の関係について研究する

■ 水圏環境教育学

身近な水産生物を活用した水圏環境教育プログラムの開発・実践・評価

■ 環境教育論

環境教育の関係について、理論的・歴史的・実践的な視点から研究する

■ スポーツ生理学、環境生理学

潜水や船酔いなどによって生じる人体の循環系変化に関する研究

■ 海洋スポーツ、スポーツ方法学

海洋のスポーツと教育に関する研究、スポーツ(競技を含む)に関する研究

■ 生命・環境倫理学

人間や動植物の生と死、地球環境などに関わる倫理的課題を考察する

■ 科学技術史

科学技術をめぐる歴史的・社会的問題の考察

■ 多文化環境論

多様な文化的属性(階級・民族・ジェンダー等)をめぐる社会的・環境的問題を考察する

■ 社会言語学

言語使用と社会の相互影響についての研究

■ イギリス文学・文化

海洋・環境・人間の観点からイギリスの文学や文化を研究する

■ フランス文学・思想、アノール派歴史学

近世から今日にいたるフランスの文学・思想・歴史

■ アメリカ文学・文化

海洋・環境・人間の観点からアメリカの文学や文化を研究する